

## ◎グループ協議【0～19歳、60・70代グループ】

○玉腰部会長 では、グループで話していきます。

ここは、0歳から19歳と60代・70代ということですが、これまでやっていた分野別の評価のことで全体の評価を踏まえて、市民にどうわかりやすく提示するかということで、年代別の健康づくりの取り組みについて検討することになっています。

結果については、後から事務局が報告くださるということですので、遠慮なく皆さんの意見をお伝えいただければと思います。よろしくお願いします。

まず、事務局からお願いできますか。

○事務局（中野食育推進担当係長） 食育推進担当係長の中野でございます。よろしくお願いいたします。

0歳から19歳の健康づくりに向けた取り組みについてご説明させていただきます。

資料につきましては、94ページをごらんください。

この資料は、八つの基本要素の中間評価において、各要素で課題につながる現状として示したものをまとめております。

0歳から19歳の状況として、家庭における受動喫煙の頻度が高い、未成年の喫煙者がいる、虫歯のない12歳児の割合が低い、人工妊娠中絶率が高いことがわかりました。

次に、戻りまして、92ページをごらんください。

先ほどの中間評価の現状に加え、特に0歳から19歳では、基本となる生活習慣、食習慣を学び、身につけることを策定時から示しているため、テーマを「正しい生活習慣を身につけ、命の大切さを学ぼう」としております。

内容としましては、毎日朝食を食べる、主食、主菜、副菜をそろえて食べる、外遊び、運動など体を動かす、飲酒をしない、かかりつけ歯科医で歯科健診を受ける、予防接種を受けるなど、生活習慣、食習慣の基本となる取り組みを挙げております。

また、この世代は、家庭における受動喫煙の頻度が高いことや、未成年の喫煙者がいるという現状を踏まえ、喫煙をしない、喫煙の影響や受動喫煙、COPDに関して正しい知識を学ぶについても挙げております。

命の大切さを学ぶということに対しては、性や性感染症、薬物に関する正しい知識を学習する、望まない妊娠や性感染症を防ぐを挙げております。

説明は以上でございます。

○玉腰部会長 ありがとうございます。

それでは、0歳から19歳の部分で、市民に向けた健康づくりの取り組みについて、皆さんのご意見をいただければと思います。

特に、取り組み内容について、市民にとってわかりやすく、行動に移しやすいような具体的な表現、重視すべき取り組みの絞り込み、整理の仕方、あるいは、これでまだ不足しているもので新たなものがあれば、特にご意見をいただければと思いますので、どうぞよ

ろしくお願いいたします。

○荒木委員 イメージがつかないのですけれども、0歳から19歳というと、わかりやすくといったときに、幼児に対する内容、児童、生徒に対する内容みたいにして、どんな表現がいいかというのを検討していくのか、それとも、親世代に対して指導するとか、教育者に対して指導するときにどんなふうにしたらいいかというように考えていくのかとか、いろいろな方向性があると思うのですけれども、どこに焦点を当てて議論をしていけばいいのか教えてください。

○玉腰部会長 市として、これはどこ向けに書いたつもりですか。

○事務局（三井地域保健担当係長） あくまで市民一人一人が取り組みやすいようにというところなので、本人が取り組む内容と考えておりました。

○館岡委員 私も対象者が誰なのかで表現は変わると思うのです。先ほど荒木委員もおっしゃっていたように、5歳、6歳以下の子に何かを見せてこうしなさいと言うことは、非常に難しいです。そうすると、親がかりです。私は小学校しか知りませんが、小学校であれば、6歳から12歳までのいろいろなことを学校としても取り組み、家庭にも働きかけなんてことは、当たり前のようにやっていることですので、それはそれで違うと思います。中学生になったり、19歳といったら大学生まで入ってくることになりますね。ですから、20代、30代以降よりも発達の違ういろいろな対象者が集まっている中で、ここが一括で何かをするというのは逆に難しいのではないかと思ってお話を聞いていました。

ましてや、その対象者が自分ですということになると、子どもが対象になりますね。5歳の子に毎日ご飯を食べるのだよと言っても、お母さんがつくってくれなかったら食べられません。小学校なんかもそういう実態があるものですから、そういうことを含めると、何となく親が対象かと思って最初は聞いていたのですが、どうなのでしょう。表現が非常に変わると思います。

○事務局（三井地域保健担当係長） 子どもについては、親の視点をどうするかというところが入ってくるとは思うので、そのような形になっていくと思います。

○吉田委員 今、挙げられた項目の中の順番というのは、何か意味があるのでしょうか。例えば、食事だったら食事にくくるとか、0歳から5歳までの内容という形でくくるとか、順番になっているほうがわかりやすいと思いました。

○事務局（三井地域保健担当係長） 順番については、八つの要素ごとの順番で記載されています。ただ、その項目がこの年代の現状として挙がってきていないものもあるので、項目を外して、まとめて記載したという形になっています。

○高橋委員 今話を聞いていて、限られたスペースで表現をしていかなければならないということで、皆さんはいろいろな意見があると思うのですけれども、まず、19歳以下と考えますと、未成年ですので、ここは割り切って、ある程度、保護者向けにという表現でいいと思います。そして、中学生以降ですと、保護者向けの内容であっても理解はでき

と思いますので、子ども向けというよりは、保護者向けにというように割り切っていた  
だくほうがいいと思います。

それから、項目に関して私が感じたのは、もちろん未成年ですから、全て非常に大切な  
項目ではあると思うのですけれども、飲酒、喫煙、性感染症の部分は一番重要だと思いま  
す。

あとは、病気を予防するとか栄養に関してはもちろん重要ですが、そういった部  
分は、重要なものと、そこまで重要ではないものと、分けて考えただいたほうがいいと  
思いました。

○玉腰部会長 そのほかいかがでしょうか。

○館岡委員 ここは、正しい生活習慣を身につけて命の大切さを学ぼうというのが取り組  
みの合い言葉になっていくとすると、整理されてくるような気がします。

私は、小学校の6年間しかわかりませんが、学校では、当たり前のように、早寝早起き  
朝ごはんではないですけれども、そういう学校指導、保健指導もしています。また、本校  
は、1年生から6年生までのそれぞれの学年で、年間五、六時間をとって、命の学習もし  
ています。内容的には、避妊をしなさいなんてことは小学生では言わないけれども、一番  
上の学年では、男の人と女の人はいくつに違ったり、お互いこういういいところがある  
のだということを理解していきましょうとか、心の悩み、ストレスについて、スクール  
カウンセラーに来ていただいて、命の学習ということで学んでおります。それは、本校  
だけではなく、よその学校でもやっていると思います。

そうすると、命の大切さというのは、小学校でも中学校でも学んでいますし、正しい生  
活習慣とはまず何かといたら、先ほどから言っている早寝早起き朝ごはんではないです  
けれども、3食をきちんと食べるということと、決められた時間に起きて、決められた時  
間に寝るといふ本当に基本中の基本のことだと思うのです。今さらそれをもう一回言わ  
なければいけないこの時代もどうかという思いはありますが、そこに特化していったほう  
が読んでいる方としては理解しやすいと思います。

フッ化物入り研磨剤を使って毎日歯を磨くと言われても、スーパーで安売りしている歯  
磨き粉を買うのはやめてというよりもっと大事な部分があると思うのです。しっかり食  
べるといふことや、歯磨きは0歳児の段階から親がかりでやっていると思いますので、そ  
ういふ部分は評価をしながら続けていきましょう、褒めていきましょうということもある  
と思うのです。

うまくまとめられないのですが、ここの表題にあることを中心に大事にやっ  
ていこうということをPRするべきではないかと思えます。こうして  
くださいと箇条書きにすることも大事ですが、そちらのほうが親には訴えられるのではないかと思  
います。

先ほども出ていましたが、具体的なことがあると、真面目な親であれば、これは頑張  
ってやっていると、うちはこれが足りないとか、そういうことをきちんと意図して次の  
ステップに進んでくれると思うのです。

そういう部分も大事ななと思いながらこれを見ていました。0歳から19歳は、未成年という一くくりではあるけれども、人生の中の一番すごい成長のときだと思うのです。そこは一括にはできないと思いますし、親を対象にするのであれば、親にお願いすべきことが先に来るだろうし、小学生であれば、歯磨きをしっかりしなさいということは子どもも自覚してやるというふうになっていくと思います。

ですから、対象者を親向け、小学生向け、中学生向けと分けて、中学生ぐらいからは喫煙のこと、飲酒のこと、性感染症のことも入ってくると思いますし、小学校はまだそこまではないと思います。やはり、一括してというのは難しいと思います。私自身、小学校の教員を30年以上やっていますが、これを見ていてそう思ったのです。全てを統括することは、それぞれの学校の中ではできると思います。教員としてはできると思いますが、これを親として見たときに、どこまで親が頑張れるかということと、こんなことは面倒くさいと思う親もいるのであれば、せっかくこういういいものを出す意味がなくなってしまうので、対象者をはっきりと絞りながらということが大事かと思っています。

○玉腰部会長 今は年代ごとに書いてありますけれども、使い方は常にそうなるのですか。それとも、次のページの現状のまとめが現状ですけれども、今、要素ごとに順番に並んでいますとおっしゃいましたが、ここに項目が入ってきて、一覧として見ると、札幌市の住民は、自分はこの世代で、こういうことに気をつけるとか、こういうことを頑張るとか、そういうふうに見えるような使い方も想定されているのですか。

○事務局（三井地域保健担当係長） もともと、この項目ごとに分けると、中間評価では現状として挙がってきていないものがあるって、取り組みとして挙がらないものがあるので、それをまとめて、こういう表現の仕方をしています。

○玉腰部会長 それはそうだと思うのですが、今、年代ごとに1個ずつ書いてありますね。それをこの表に入れ込むという示し方をする予定はあるのですか。それはいいですか。

○事務局（三井地域保健担当係長） 当初は考えていなかったのですが、その理由は、抜ける項目があるということではあります。

○玉腰部会長 本来、中間評価で読み取れていないはずのことまで書いているから、そういうふうにするつもりはなかったということですね。

○事務局（三井地域保健担当係長） ただ、ご意見があれば検討したいと思います。

○玉腰部会長 もう一つお聞きしたいのは、今、皆さん、0歳から19歳の一くくりでは明らかに難しいよねという感じなのですが、例えば、母子は要素として別にあるわけですが、母子を抜き出して、母子は別につくって、だから、母子と言っても、子どもはどこまでかというのはもちろんあるのですが、小学校以降ぐらいの子どもたちを一つにして、もうちょっと下の子どもたちは、母子としてまとめるという示し方もあるように思うのです。そうすると、実は、児童虐待の話が入ってきます。今、この年代ごとに書いてあると、児童虐待がうまく入っていないと思うのですけれども、そういう手もあると思います。それはどうですか。

○事務局（三井地域保健担当係長） まとめ方については、ご意見を踏まえて再度検討させていただきたいと思います。ほかの年代との兼ね合いも、意見を聞いた上で総合的に検討させていただきます。

○高橋委員 今、玉腰部会長が言われたことは非常に重要だと思います。この年代別の現状のまとめというイメージで表現されるのであれば、どれが重要も何も、この表に従っていくしかないと思うのです。これに関係ないというのであれば、新たな重要度とか、先ほど言われたように、幼児期なのか、ある程度の年齢に分けるというやり方だと思うのですけれども、それが大体わかれば、かなり変わってくると思うのです。あくまでも94ページのようなイメージにこだわるのであれば、これにのっとったまとめ方しかないのかなと思います。

○荒木委員 札幌市の資料で、がんだったか、歯だったか忘れたのですが、一般向けと小学生対象ぐらいで出したものがあったと思うのです。それは、一般対象に向けての大事さと、そのことを子どもに向けて知らせるのにすごくいい表現だと思って見ていました。ある意味、大きなくくりでいくのであれば、大人向けみたいな感じでも、よりわかりやすい表現にしたものと、小学生ぐらいを対象にした何かをつくるという方法があると思っていました。

あとは、中間評価の前に、年代別にかかわることの大事さを示したものがあれば、それのほかに、今回、中間評価で問題になった年代別現状のまとめをもとにして、ここをピックアップしてつくるという方法が一つあると思います。

○玉腰部会長 こういうふうにより年代別に何々をしましよと書いたものは、計画段階のものに入っていましたか。

○事務局（三井地域保健担当係長） 計画策定時には、年代別で示したものはありません。本書には掲載されていません。

○玉腰部会長 わかりました。では、前のものにこだわる必要はないですね。

○事務局（三井地域保健担当係長） はい。

○玉腰部会長 私たちは、まだ上の世代に行かなければいけないので、ここだけお伺いします。皆様のご意見は、0歳から19歳の一くくりは、さすがに広過ぎるということではよろしいですか。それをどう切り分けるかについて、市として、あちらのグループのご意見もあわせて考えたいということですね。

○事務局（三井地域保健担当係長） そうですね。もしくは、この形を変えないで、今、中身についてご意見をいただくとしたら、0歳から19歳の年代を、保護者に示す年代と自分たちで取り組める年代に分ける、もしくは、この中で、保護者にはこれ、子どもたちにはこれというように分けることも考えられると思います。

○玉腰部会長 そういうことで、次に進んでもいいでしょうか。グループでやっても消化不良みたいになってしまいますけれども、ごめんなさい。

では、60代・70代について、まず、事務局からご説明をお願いします。

○事務局（檜田歯科保健担当係長） 歯科保健担当係長の檜田です。

60代・70代についてご説明させていただきます。

94ページをごらんください。

60代・70代以上の現状といたしましては、上から順番に、60代の女性は、外出に積極的な人の割合の減少、また、60代全体では、家庭における受動喫煙の頻度が高い、歯周炎を有する人の割合の増加、グループ等の自主活動に参加する割合が低下していることがわかりました。

次に、93ページをごらんください。

これらの現状を踏まえまして、テーマを「社会とつながりを持ち、年齢にあった健康づくりに取り組もう」としております。

具体的な内容といたしましては、主食、主菜、副菜をそろえ、特に肉や魚は意識して食べる、よくかんで食べる、自分に合った運動を続け、体力を維持する、定期的に健康診断、がん検診を受ける、かかりつけ歯科医で歯科健診、歯周疾患健診を受けるなど、年齢に応じた生活習慣、食習慣の改善に向けた取り組みを挙げております。

また、この世代にとっては、社会とつながりを持ちながら、健康づくりに取り組むことが重要であるため、積極的に外出する、趣味や生きがいを持つもあわせて挙げております。

説明は以上です。

○玉腰部会長 ありがとうございます。

それでは、先ほどと同じように、取り組み内容について、市民にとってわかりやすいのか、行動しやすいのか、あるいは、表現のことや、重視すべき取り組みを絞り込む、あるいは、整理をする、あるいは、足りないものを加える、いろいろな観点があると思いますけれども、ご意見をいただければと思います。

○荒木委員 この年代になると、とてもわかりやすいし、イメージがつきやすくて、全部がわかりやすくていいと思いました。

高橋委員、やっぱりフッ化物入りの歯磨き剤を使わないとだめなのですか。

○高橋委員 歯磨きのことは置いておいて、今、ご意見があったとおりで、非常にわかりやすくて、上の「社会とつながりを持ち、年齢にあった健康づくり」というのが全てです。この中で幾つかの項目が挙がっていますがけれども、健康管理をすとか、フッ化物入りの歯磨き剤とかもそうですけれども、これは全部自分でできることだと思うのです。ただ、つながりを持つというのは、自分一人では持てないので、ここの二つの部分に分けて考えるのがいいと思います。つながりを持ちたいと思っても、相手があつてのことです。ほかの体重計に乗るとか喫煙をしないというのは、自分の健康管理の部分なので、まさに上にある二つの部分で、この年代については比較的わかりやすくまとめてあると思いました。

フッ化物のほうがよろしいかと思えます。

○玉腰部会長 いかがですか。

○館岡委員 結局、全部を見ると、休養の部分にもなると思うのですが、睡眠については

特別書かれていないと思うのです。人間、やっぱり寝ないとだめですよ。これは中間評価の云々で挙がってきていないから触れられないという決まりがあるのでしょうか。

○玉腰部会長 それは、中間評価の44ページを見ると、60代・70代になると問題になる人が減ってきているから取り上げなかったということですね。

○事務局（三井地域保健担当係長） はい。

○荒木委員 高齢者のところで問題が少なくなっているのは、多分、眠剤などを使っている人がかなりいるのではないかと思うのです。どうしてもよく眠れた感がなくなってきて、いろいろな病気で受診して、高血圧の薬と一緒に睡眠薬をもらったりしていることが多いのかなと、このデータを見たときに推測しました。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） 44ページのグラフだけを見たら、60代・70代は、データ上は、睡眠により疲労がとれない人の割合は、40代・50代よりは低いというデータになります。

○高橋委員 今、睡眠というのは、やっぱり体の健康があつてのことなので、あえて睡眠という言葉を入れることに抵抗があるようでしたら、健康を保って十分に睡眠をとるようにしましょうという感じがよろしいと思います。それは、健康維持のためにも問題ないと思います。睡眠だけを取り上げると、いろいろな抵抗があるかもしれませんので、健康という言葉と結びつけて入れ込んでいただいても問題はないと思いました。

○玉腰部会長 ほかはいかがですか。

高齢者の栄養の問題はどうですか。

○吉田委員 具体的に出ていたのです。

○玉腰部会長 何をしなければいけないかということは、確かによくわかりますね。一方で、高橋委員がおっしゃったように、社会とのつながりという意味では、外出するところと、趣味、生きがいを持つところにつながっているのでしょうか。外に出ても人とつながれるわけではないし、趣味や生きがいも1人でやるものもあるので、ここはどうするのがいいのでしょうか。役割を持ってとか、そういうことですか。それは確かに入っていないですね。

もう一つは、中間評価が出ていないので、つぶやいていると思っていただいてもいいのですが、この年代になってきたら、かかりつけ歯科医を持つのは大事だけれども、かかりつけの医師を持つのは必要ないのですか。あるいは、必要な服薬をきちんとするみたいなものは要らないのかということが気になりました。どうでしょうか。

○荒木委員 必要だと思います。病院の受診の問題があつて、今、総合病院ですと、初診でかかると別料金がかかったりするのが市民に教育されていなくて、市立病院はどうして初診料のほかにお金を取るのだとか、いろいろなことが起きている中で、かかりつけ医をちゃんと持っていないさいということがどこかで啓蒙されていかないと、大きな病院と診療所との差がわからない状況が続いていくのではないかと思います。今、玉腰部会長がおっしゃった要素というのは、市民教育としてすごく大事なことかと思いました。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） 質問にかかりつけ医もかかりつけ歯科医もあって、かかりつけ歯科医のほうが少ないから、あえてここに入っているのではなかったですか。

○事務局（三井地域保健担当係長） かかりつけ医の指標は、66ページに出ていますけれども、目標に向かって推移してきていて、A評価になっていますので、ここに特化して挙げていない形になります。

○玉腰部会長 かかりつけ医は、年齢が上がるほど上がるのですか。ここには出ていないですね。先ほどの睡眠もそうですけれども、高齢期の人のほうがほかと比べるといいとか、その目標値に向かって近づいているから書かなくてもいいということでもないような気がします。足りていても、やってほしいことが足りているのだから、やっぱりメッセージとしては伝えておかないといけないという気もするのですけれども、どうですか。

○荒木委員 0歳から19歳を本当にまとめるのだったら、喫煙のところとか親子の健康だけでいいけれども、全部に集約しているのと同じことでいくと、60代から70代の人たちも全て続けていきましょうというメッセージは大事という気がします。

○高橋委員 かかりつけ医とか医療機関と密接に関係を持っていることで、健康を維持するということに意識が向いていくと思いますので、かかりつけ医という文言を入れていただいて、それによって健康のほうに意識を向けていただくという意味ではいいと思います。これが、日ごろから健診を受けるということにもつながってくると思います。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） いろいろサジェスションをいただきましたけれども、おっしゃるとおりだと思います。大事なものは大事だということで、確かに、今回、我々がまとめたのは、目標値に達していないものを拾い上げて書いているので、歯科医だけを入れて医者がないというのはどうしてなのかということと、玉腰部会長がおっしゃっていた、外出をしたからといって社会とつながっているとは限らない、いわゆるソーシャル・キャピタルというか、社会とつながっているほうが、要介護になりにくいとか、いろいろなデータが既にあるわけですから、そういうことからすると、そういった社会とつながるという文言もあったほうがいいですね。

○玉腰部会長 高齢者が社会とつながる場面とか手段は何かありますか。うまくこれをやったらいよとかね。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） それについては、行政でも、各区の中で高齢者を対象にした健康づくりのいろいろな取り組みとか、高齢者の方がいろいろな活動を自主的にやられているので、そこにいかに参加してもらおうかというのは一つの課題だと思うのですが、その引き出しは札幌市としていろいろと用意されているのだと思うのです。その参加の仕方というところが、今後の課題になるのかなと思います。

○玉腰部会長 先ほどの全体の方針ともかかわるのですけれども、環境づくりのほうはしていただいて、市民側の意識のほうをこの部分でどう呼びかけていくか、高めていくかということかと思います。

そのほかいかがでしょうか。



○事務局（矢野保健福祉局医務監） 先ほどの0歳から19歳のところですがけれども、これを見てみると、基本計画の親子の健康というところに、今、皆さんがおっしゃっていたことが書き込まれているのです。ですから、その部分と0歳から19歳という切り口の違いというか、親子となると、必ず親と子ですね。保護者がいてという形で、0歳から19歳となると、必ずしも親子ではない面も出てくるというところで、その辺を少し整理したらいいというふうに思いました。

○玉腰部会長 国における健やか親子21と健康日本21を別々に見ているみたいに、0歳から19歳のところに全部を放り込んで、本人主体と言われても難しい部分はあると思いますので、もし可能なら整理をしましょう。

そろそろ予定の時間ですが、0歳から19歳の話に戻っても結構ですし、60代・70代のものでも結構です。ほかに何かつけ加えておくべき要素はありますか。

○荒木委員 0歳から19歳のところですがごく大事なものは、思春期の教育なのかなと思うので、0歳から19歳のところでまとめたものをつくるときに、思春期の中学生後半から高校生ぐらいの生徒を対象にしたようなものが何かあるといいのかなと感じました。

そこでは、20代の女性の痩せのことにつながるような食事の教育と一緒に入れるという部分にもつながると思っています。20代の痩せがすごく気になっていて、健康なお母さんになってほしいなと思っているものですから、それは思春期から大事なかなと思っています。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） もともとある基本計画の親子の健康のところ三つの項目立てがあって、一つ目が安心、安全な妊娠・出産、二つ目が子どもの健やかな成長への支援、三つ目が思春期の心と体の健康づくりということで、健康さっぽろ21の枠組みとしては、委員がおっしゃるようなことが書き込まれているのです。

○玉腰部会長 それがこうなってしまったのですね。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） 不足しているものを、中間評価の中でデータから出された課題がこれということで、確かに課題だけが見えてしまって、では、本当に必要なものは何なのというところで、抜けているものがあるということですね。

○玉腰部会長 そういうことですね。先ほどの60代・70代の話と同じで、ベースに大事なものは全部入れた上で、ここが重点だというものがちゃんと入ってこないと、結局、これしか見ない市民に伝わるメッセージとしては不足してしまうので、そこは意識して、もう一度整理をしましょう。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） 先生がおっしゃっていた睡眠の話ですが、睡眠は、必ずしも高齢者だけの問題ではなくて、今、子どもの睡眠障がいもすごく問題になっていますね。ですから、ある意味、年代を超えた課題なのだろうと思います。今、スマホだとかいろいろなことで、日本の子どもたちの睡眠時間が世界的にも非常に短いということが問題になっているので、必ずしも高齢者の睡眠障がいだけが問題ではなくて、あらゆる世代の課題なのかなと思っています。

○館岡委員 あらゆる世代なのに、どこにも書かれていないという弱点ですね。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） 大事なものは、ベースがなくて、今回の調査で不足したものだけを取り上げているということです。

○館岡委員 実は、全国学力・学習状況調査でも出ていますが、北海道はテレビゲームをする時間が全国平均より何時間も多かったりするのです。それは、どうしても冬は外に出られないからで、外に出て遊びましょうと言っても、冬は札幌も含めてなかなか出づらいです。1年中、外で遊べるような環境にはないということです。

学校としては、グラウンドに出て遊ぶのだぞと、小学生には特に言いますが、中学生ぐらいになると、部活以外では外に出ないというふうになってしまいますので、難しいところがあると思います。ですから、出ようと思っても、着るものがなければ出られないような家庭の状況もあると思います。

ただ、私は小学生しかわからないけれども、子どもの健康ということから言うと、やはりここに載っているようなことです。予防接種を受けるというのは、「受ける」ではなくて、親へのメッセージだったら「受けさせる」ですね。子どもは予防接種なんてよくわかりませんので、そういうことから言うと、親としての意識をどれだけ持って子どもに接しているかということが見えてくるのです。

そういう意識を親に持たせる、それも嫌味なくといいますか、ああ、そうかぐらいの気づきで動けるような語りかけが保護者には必要だろうと思います。

子どもだったら、毎日朝食を食べると言われたら、食べなければいけないのだと絶対に思い込みます。中学生でも朝食が大事なことはわかりますが、毎日となると親としては大変に思ってしまうところもあります。そのところは、やわらかくやる気にさせるといいですか、学校でプリントはそういうふうにつくるのですけれども、そういうメッセージ性が必要だと思います。読むほうの気持ちも考えて、同じメッセージを伝えるのであれば、どうやったらそれぞれの年齢に伝わるのかということを考えて出すほうが効果的ではないかと感じています。

○玉腰部会長 今、すごく大事なことを言われたと思いますが、これは、北海道、札幌は冬場が長いということを全く無視して書いていますね。これは、どこに持っていても通用することが書いてあって、それは普遍的なものだからという言い方もできるけれども、本当に北海道の冬場を考えたときに、外遊び、運動など体を動かすという一言だけでできるかということ、実はすごく難しい問題です。

学校だと、それはどうなのですか。

○館岡委員 外で遊びなさい、スキーも全部やっていますね。札幌市の教育委員会の考えで、雪と環境と読書というのがありますから、雪に親しむということがありますけれども、中学校に行くと、それはずれていきます。札幌市では、雪かきを一生懸命やりましょうということで、冬休み前に、雪かきを頑張ったら、何分頑張ったということで、学校ごと表彰をしたりという方法もあります。ただ、今、マンションに住んでいるまち中の子は、雪

かきをしたくてもできないという反対意見もあるのです。

ですから、今、玉腰部会長がおっしゃっていたように、一括、これでオーケー、雪かきをすればいいという解決方法でもないわけですね。

○玉腰部会長 難しいですね。例えば、60代・70代が積極的に外出するのはいいよねと思ったけれども、冬場に積極的に外出をして転んで骨を折ったらどうするのだみたいな話になりますね。これはどうしたらいいのですかね。本当に難しい話だと思います。

札幌市民の健康を考えたときに、どういう生活をしてもらいたくて、それが札幌市の環境に合ったものでちゃんと提案ができていくかということですね。

○事務局（矢野保健福祉局医務監） これは第二次計画ですけれども、第一次計画のほうには、冬の運動の記載があったように記憶しています。それが第二次計画で消えてしまっているのです。

また、今、例えば、チ・カ・ホを歩くと、歩数によってポイントがもらえるとか、インセンティブを与えるような試みも始めようとしているところではあるので、例えば、冬に転ばないチ・カ・ホを歩く取り組みがやられていますね。

○玉腰部会長 取り組みのところに、運動について米印でもつけて、冬場だったらこんなやり方がありますとか、何かあったほうがいいのかもわからないですね。一律に日本中どこでやっても同じというわけではないので、環境づくりのところとかかわってくるので、市民としてはそういう意識を持つということですが、一方で、転ばないように気をつけなければいけないというところを伝えたいのです。むしろ、子どものほうは冬場でも外に出て遊べと言えればいいだけかもしれないけれども、年齢が高くなってきたときには、ただ単に外出すればいいわけではなくて、きちんと用心しなければいけないということもあわせて言わないと、結局、そこから寝たきりになって認知症になってしまったら困るので、歩く場の作り方については、環境づくりのほうで少しフォローしていただく必要があるかなと感じました。すごく大事なポイントだったと思います。

ほかはいかがでしょうか。

○館岡委員 どうしても気になるのは、0歳から19歳の一括は絶対にやめてほしいということと、もし分けるとしたら、乳幼児と、また思春期という言葉が出ていたのですけれども、思春期前半とか後半とか、せめて三つぐらいのグループで考えていただきたいです。乳幼児は、完全に親宛てのメッセージになると思います。

○玉腰部会長 乳幼児は、母子でもいけますね。

○館岡委員 それでいけると思います。そこは難しいですが、逆に期待したいと思います。どういうふうにメッセージ性を持たせながら表現してくれるのかを楽しみにしています。

○玉腰部会長 では、あちらのグループの協議が終わったようなので、こちらも終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

以 上